

英語教育にお勧め

さまざまな英語の絵本を集め、毎晩まな娘のケイリーちゃんに読み聞かせている。「絵本はいろんな国の文化を学ぶことができるし、絵を楽しんだり単語や決まった表現を覚えたりとたくさんいいことがあります」。インターナショナル保育所では1日3回読んでいたといい、「小学校の授業でも、もっと使わなきゃ」と日本の教育現場で活用されていない現状を残念がっている。



まな娘の成長を記録中

趣味は旅先での写真撮影。最近では、被写体はケイリーちゃんばかりに。「2歳の今が一番かわいい時期かも。成長をずっと忘れたくない」。言葉の成長の記録も、生まれてからずっと専用ノートに残している。「私は英語だけで話し掛けています。彼女はまだ英語と日本語を一つの言語だと思っているので、両方が混ざります」。今後、言語研究に生かされればとも考えているそう。



頼りになる存在

13年前に日本語検定1級を取得し、普段は流ちょうな日本語を操るが、困ったときは電子辞書を活用する。「使う回数はだいぶ減って、今は会議の資料で分からないときに開くくらい」。ちなみに、最近検索した言葉は「躊躇」。



年中手放せない必需品

小学生の時に日焼けで大やけどを負って以来、年中日焼け止めを使っている。ケイリーちゃんも肌が白いため外出時には塗ってもらうようお願いしたところ、いくつもの保育所で断られたという。「私の国では子どもの日焼けは皮膚がんにつながるという意識が強い。日本の教員もそのことを考えるべきだと思います」



パスポートは2冊持ち

両親が英国からの移民であるため、オーストラリアと英国の2カ国のパスポートを所持している。「ビザがいる・いらぬなど、訪れる国によって使い分けられて便利。でも、実は英国のパスポートは使ったことがないです」



ただ 多田ウェンディ 講師

文化表現系教育コース
〔言語系教育分野(英語)〕

オーストラリア出身。平成8(1996)年アデレード大学を卒業。9(1997)年にALT(外国語指導助手)として来日し、CIR(国際交流員)を経て英会話学校などで英語を教える。20(2008)年にはモナシュ大学大学院修了。島根大学、姫路獨協大学で講師を務め、25(2013)年から現職。専門は応用言語学。授業は「英語コミュニケーション」(学部)、「英語アカデミックライティング」(修士課程)などを担当。

先生に質問!

Q 日本で英語を教えるようになったきっかけは?

A 大学を卒業後、最初はALTとして来日しました。これまで教える仕事を選んできたのは、皆さんの夢の実現を助けたいからです。私は大学で初めて日本語を習い、人生が大きく変わりました。その経験から、大学時代はスキルアップする上で大事な時期だと考えています。特に、兵教大では教員を目指す学生を教えられるということに、魅力を感じています。

Q その理由とは?

A 以前勤めていたインターナショナル保育所では、ほとんどの日本人の子が5歳、6歳で英検4級に合格します。幼いころは教育の影響を受けやすく、教え方一つで変わります。影響力を持つ一人が小学校の教員です。日本の英語教育を変えるにはその人材を育てることが大事で、それに関わることができると嬉しいです。

Q 講義で重視している点は?

A コミュニケーションのクラスでは、とにかく英語でたくさんしゃべることです。そのために、自分についてコメントできるようなテーマを用意しています。学生にいつも言っているのは、「Try」。返事だけでなく、相手に質問をするなど会話が続くようにすることが大事です。きちんとした文章じゃなくても大丈夫。将来学生たちが教員になったときに、「私の先生は英語をしゃべれて格好いい」と憧れられる存在になって、「もっと英語を勉強したい」という子が増えてくれたらと思います。